

ただいま ご紹介にあずかりました高原でございます。

私が生まれて初めて埼玉に参りましたのは中学 3 年生の時です。先輩が空手の大会に出るので、埼玉まで見に来たんですね。そして、帰りに東京に立ち寄って、なんと銀座に寄ったのでございます。せっかく銀座に来たんだから晩飯食って行こう。中学 3 年生が 3 人組で、銀座で何を食べたか。マクドナルドなんですね。銀座三越の所にマクドナルド第 1 号店があって、私はそこで、生まれて初めてビッグマックというものを食べ、世の中にこんなにウマイものがあるのかと感激したんです。

マクドナルドを日本に持って来たのは藤田 田（ふじた でん/1926-2004）という社長です。

苗字が藤田で名前が田。クリスチャンであるお母さんが付けました。

田には口の中に十字架が入っています。「この子が大きくなったら、人の悪口・陰口ではなく、十字架のイエス・キリストのことを伝えてほしい」と願ったんですね。

また、口は食べる所、すなわち仕事の意味もあります。「この子は十字架の仕事をしてほしい」という意味を込めてこの名前を付けたんですが、残念ながら、彼はクリスチャンになりませんでした。

しかし、その名前のことを聞いた時、名前というのは最も小さな詩/ポエムだなと思いました。

特に女の子の場合、そうじゃありませんか。親は子供の名前に詩心で様々な夢を託すんですね。

ところで、私の名前は（*板書して）高原剛一郎です。わざわざ書くほどのことではないんですがー。

剛▶強くて、一▶ナンバーワンで、郎▶男の中の男。

実に欲張った名前でございます、自分で言っていて恥ずかしくなってしまうんです。

子供の時はあまり好きではありませんでした。というのは、平仮名で書くと 10 文字です。

たかはらごういちろう。長っ！テストの答案用紙の名前の欄からはみ出してしまうんですね。

この名前は私の父が付けたのでした。しかし、なぜこの名前を付けたのか、父に聞くことはできなかつたんです。私が 1 歳 8 か月の時に父は死んだから。そこで母に聞きました。

「父さんは、なぜこの名前を付けたんだろう。（私は長男なので）一郎…なぜ剛一郎なんだろう。」

「実は言ってなかったけど、あなたにはお兄さんがいたのよ。でも小さい時に死んでしまっただけね。」
親にとって自分よりも先に子供が亡くなるという、これ以上に悲しいことはない。

「それであなたが生まれた時、『絶対に親よりも長く生きてほしい。強く生きてほしい。しぶとく生きてほしい。今度の長男は強く生きてほしい。死ぬなよ！』という願いを込めて、剛一郎と付けたのよ」と母は言ってくれました。

私は父のことを何も覚えてません。皆さんだって 1 歳の時の記憶ってないんじゃないですか。

私は父の顔も声もエピソードも、おそらく私を色んな所に連れて行ってくれたでしょうが、一つも覚えてません。

しかし、父がいないことで寂しいと思ったことは 1 回もないんです。

初めからいないのと同じだから。私の記憶の中に全くないので、「ああ、こんな時に父がいてくれたらどんなにいいか」と思うことすらもできない。それは寂しいことです。

しかし、自分の記憶の中にはないけど、自分の名前の由来の中に、父が私をどんなに愛していたかが込められている。それが分かった時、イメージできない父のことが、なんとなくイメージできる気がして来ました。

世の中には親に愛されない子供もいるでしょうが、少なくとも私はそうではない。父は私を愛してくれたのだ。そして私に、強く逞しく生きてほしいと願ってくれたのだ。私は歓迎されて、この世界に生まれて来たんだ。そのことが確信できると、なんだか生きる勇気が湧いて来るというか、「よーし。人生ってというのは捨てたもんじゃないぞ！」そんな気がするんですね。

今日 皆様にご紹介したいのは、皆様の魂を造られた、あなたのいのちのルーツである方。聖書はその方を創造主と呼んでいます。あなたの造り主である方。人が作った神々でなく、人を造られた方。この世界の第一原因者。そして、あなたを愛してやまない方。その方を聖書は神と呼んでいるんです。その神様が、あなたにどうしても知ってほしいと願っているメッセージ。それを福音と言います。今日は、その福音のエッセンスの部分をお話したいと思います。

私がこの神様について真剣に考えるようになったのは高校生の時でした。アルバイト先の先輩がクリスチャンだったんです。非常に熱心なクリスチャンで、私に聖書を勧めるので言いました。「私は信者じゃないので、神様を信じてないので、そういう感じの本は読みません。」そしたら彼は「それは違う」と言うんです。「『それは違う』って…。私の意見なんだから」と思ったのですが。

「君は神を信じてないと言ったけど そうじゃない。神はいないと信じてるんだ。確かに君は信者じゃないが、“神はいない教”の信者とも言える。私は神を信じているけど、君は“神はいない”という哲学を信じているんだ。ところで、何かを信じるには信じる根拠があると思うけど、神がいらないという根拠を説明してくれないか。」

私は苦し紛れに、見えないから、触れないから、匂わないから、五感で感じる事ができないからとか、そんなことを言ったと思うんですけど、「それって他人の受け売りの意見を言ってるだけで、自分で突き詰めた考えじゃないよね。他にないの?」「ないですね。」
「大した根拠もないのに“いない”って言い切れるって、大した信仰だね。」
私はその時、それが皮肉とも分からず「(*頭を掻きながら)それほどでもありませんよ。」

「でも、そういうあなたは、神がいるという根拠を持っているんですか。」
その時 彼が最初に開いてくれた聖書の箇所が、私の人生の方向を転換して行く第一歩になりました。今日は2箇所見ます。まず、私の思い出の箇所を共有したいと思います。

ヨブ記 26 章

7 神は北を、茫漠としたところに張り広げ、地を、何もないうちに掛けられる。

神はこの世界を造られた作者です。神は地を、何もないうちに掛けられる。
地は英語の聖書では“The Earth”。地球のこと。神様は地球を何もないうちに掛けられる。

“掛ける”は、例えば、戸口に表札を掛ける。窓にカーテンを掛ける。クローゼットに洋服を掛ける。戸口には鉤や金具があって、そこに表札を掛けます。窓にカーテンを掛けるためにはカーテンレールが必要です。それがないとストンと落ちますね。クローゼットに洋服を掛けるためにはハンガー。

ところが、表札よりもカーテンよりも洋服よりもはるかに重いこの地球が、**何も無いところに掛けられる**。何もなかったら掛けることはできません。

しかし、今から約 3500 年前に書かれたこの聖書には、「宇宙空間という**何も無いところに地球は掛けられている**のだ。浮いているのだ。浮きながら回転運動をしているのだ」と、他の箇所にも書いてあるんです。

更に不思議なのは、**神は北を、茫漠としたところに張り広げ**。

張り広げるはヘブライ語でノテー。ノテーには“傾ける”という意味もあり、北が傾けられている。実は、地球の地軸は北に向かって 23.4 度傾いているんです。だからこそ四季がある。

“北が傾いた惑星が宇宙空間に、**何も無いところに掛けられている**”と聖書に記録されたのは、今から 3500 年前。青銅器時代です。

スペースシャトルも天体望遠鏡もない。宇宙ロケットの時代ではない。そんな古代人が、なぜ地球が宇宙空間に浮いていると書くことができるのでしょうか。神が書かせたのです。

聖書には、神が教えて書かせたのでない限り説明がつかない箇所がたくさんあるんです。

科学の教科書は毎年改定されますね。科学の世界で真理と言われているものは“断定真理”といって、目下のところ一番辻褃が合う説明という意味です。

なので、新しい観察結果が出て来ると、次々書き直しがあります。

しかし聖書は、3500 年間 ただの一度も書き直しがないんです。

そして、科学が進めば進むほど、聖書の記述に科学のほうに寄って行くのです。

なぜこのようなことを神は書かせたのでしょうか。

疑り深い現代人は「ほんとに神様はいるの？見えないけど、どうしたら神様を知ることができるの？」

神様は作者なので、ご自分の作品に対して正確なコメントを残すことができるんです。

その正確なコメント、神でないとは知り得ない・書き得ない真理を聖書に書き残しておくことで、それが科学的にその通りだと分かった時、創造主/神様は本当におられると分かるのではありませんか。

このように聖書は、「とにかく何でもいいから信じてください」という本ではないんです。

根拠を示しています。何でもいいから信じたらいいというのは迷信。狂信。妄信。

こういうのに進んで行くと、統一教会の世界に入っていくのです。

しかし、聖書が言っている信仰は、信じるに足る根拠があるので信じる信仰です。

聖書の神は宇宙を造り、あなたを造り、そして、あなたを愛しておられる方なのです。

さて、もう 1 箇所見ましょう。

ローマ人への手紙 3 章

23 すべての人々は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

聖書が語っている神はあなたの作者のことです。

神をヘブライ語で“エル シャダイ/全知全能の神”と説明しているところがあります。

エルは力・お父さん。シャダイは乳房もつもの・お母さん。

母にくさかんむりを付けると苺。お母さんって苺のような存在…のはず。甘酸っぱくて、赤くって、丸くて、いい匂いがして、癒し系。威圧系じゃない。

父にくさかんむりを付けると艾（もぐさ）。よもぎを乾燥させた物でお灸の材料。

悪い事したら懲らしめますが、これを“お灸をすえる”と言います。

昔から、父の役割はお灸をすえること。お母さんの役割は「お父さん、もうやめてあげて」と執り成すことです。最近は、苺のような父と艾のような母になりつつありますが。

エル シャダイとは“神は完全な父性と完全な母性を併せ持っておられる”ことを告げているのです。つまり、あなたの魂の親ですよ。あなたの本当のお父さんですよ。

ところが、すべての人は罪を犯した。この罪は、真の創造主から離れるという罪なんですね。

罪と聞くと法律違反をイメージするかもしれませんが。

しかし、聖書が言う罪は原語ではハマルティア。的から離れていくという意味があるんです。

私と作者の関係を断絶状態にしていること。創造主から離れて生きること。創造主に背を向けて、神と無関係の人生を生きて行くこと。これが罪です。

創造主との関係を切ったために、人はずいぶん苦労するようになりました。

植物が根っこから切り離されると、しばらくは青々と茂っていてもやがて枯れて行くように、創造主という祝福の源と切れると生きるのが辛くなります。

初めて松伏の集会に来たのは15年ほど前ですが、その時松伏の観光名所を案内していただきました。松伏には見る所がたくさん。富士山がきれいに見えること、ご存知でしたか。私は昨日知りました。しかし「もっとすごい所がありますよ！石川遼（いしかわ りょう）の実家。ここから歩いて行けます。よろしければどうぞ！」史上最年少でプロゴルファーになって優勝したこともある。

ゴルフの世界にクリスチャンがいます。中嶋常幸（なかじま つねゆき/1954-）さん。

彼にゴルフを仕込んだのはお父さんです。10歳の頃からゴルフに打ち込みました。

彼の人生は、お父さんと自分との大葛藤の生涯。とにかく鬼軍曹のような。徹底的なスパルタ教育。

ゴルフに関係ないことは一切させなかった。高校も中退させました。「高校の授業って、ゴルフと関係あるんですか」と。「高校なんか行ってたら、練習する時間が減ってしまうじゃないか。やめろ！」普通の少年少女やハイティーンがやってることは何も経験しないで、ひたすらゴルフばかり。

鬼軍曹の下で徹底的にしごかれるのですが、そのおかげでデビュー以来目覚ましい活躍をします。日本ナントカ、日本という名の付くゴルフトーナメントが7つありますが、7冠制覇しているのは彼だけです。凄いゴルファーですよ。

しかし、どんなスポーツ選手にもスランプが来るんですね。スランプが来ると大変です。

今まで出ていた成績が出ない。そこで、死に物狂いになってもっと練習する。

練習して練習して追い込んで、ようやくスランプから脱出した時、「やったー！遂にトンネルの出

口に出たぞ。バンザーイ！」とはならないと言うんです。

スランプから脱出したプロ選手たちは こう考えるそうです。「次、またいつ来るのか…。」

彼はスランプのどん底で律子さんと知り合いました。彼女はクリスチャンです。

お父さんはとにかく支配的で、結婚しても別居を許さなかった。

「結婚して甘っちょろい新婚生活でゴルフが疎かになったら、今までの努力が無駄になる。結婚しても俺のコントロールの下に留まれ。」結婚後もお父さんの管理下に入ったのです。

父からのプレッシャーと勝てなくなること、それにプレッシャー。彼は徐々に壊れて行きます。

このままだと、もう中嶋常幸は壊れてしまう。そこで奥さんが言いました。「教会に行きましょう。」

教会で語られている聖書のメッセージは、この世の価値観と正反対です。

私たちは自分の努力や頑張りだけで生きてるんじゃない。人間は生かされた存在なんだ。

彼は教会に行って、やがてキリストを信じ受け入れ、洗礼まで受けました。

しかし、本当には分かってなかったんです。

「教会に入ったらクリスチャンにされてしまう」と心配している人がいるなら、そんな心配は大丈夫です。教会に入って自動的にクリスチャンになれるか。ガレージに入ったからといって自動車になりますか。教会に入ったくらいではクリスチャンになれませんよ。

イエス・キリストを救い主として 個人的に本当に受け入れなければ、その変化は起こりません。

あるトーナメントで彼が勝ったんですね。それで意気揚々と帰宅して「今日は勝ったぞ！」

奥さんが「私も主に祈ってたよ。」その瞬間、彼が不機嫌になった。「おまへの祈りのおかげで勝ったと言うのか。舐めたこと言うんじゃない。俺は血の滲むような努力をして、練習して勝利を勝ち取っている。おまへの祈りが俺を勝たせた？バカにするのもいい加減にしろ！二度と祈るな！」

これはクリスチャンの言葉じゃないです。

奥さんは「彼はクリスチャンになったと思っていたけど、まだ神を本当に理解するところまで行ってない」ということに気づくんですね。とても怖くなりました。

彼の中では信仰は信仰。つまり教会にいる時だけ信仰生活。教会から出て、世でゴルフをやっている時はゴルフはゴルフ。

聖書の神はそんな区分けはしません。私たちの人生のすべてを恵みで支配することができる方です。神のこの絶対主権が彼の中にまだ入っていない中、お父さんの鬼軍曹ぶりがいよいよ激しくなった。教会に行っても神様のことがピンと来ない。ゴルフではまともに勝てない。家に帰ると鬼軍曹が叱咤する。それで、どうしたと思いますか。夜逃げです。父の手から逃れるために。

そして、初めて夫婦の生活をするのができ、お子さんを授かったんですね。

ところが、3度目のスランプが来たんです。これはめちゃくちゃ長かった。

それだけではなく恐ろしいものだった。ボールを打とうとすると手が震え出すんです。

遠くに飛ばす時も、ホールまで 30センチの時も震える。30センチが入らない。

今まで優勝できなくても 3位とか 5位とか 10位。それが百何十位の常連。やがて予選通過もできない。そうなったら、もうトーナメントからお呼びが来ない。たくさん付いていた CM スポンサーがみな打ち切る。テレビ局やゴルフ関連の雑誌の取材もパタッと止まる。

やっぱり父が言ったとおりだ。勝ってなんぼだ。頑張って、歯をくいしばって他人との競争に打ち勝ち、他人をはねのけ、勝ち抜いて、初めて自分の価値を認めてもらえる。だけど自分ではできない。

ある時 最後のチャンスで最悪の成績。深夜に電話が掛かって来ました。

「一生懸命やったけど、これ以上できない。もういいだろう。疲れた…。」
プツッと切れて1週間音信不通。奥さんも子供たちも“自殺を考えているのでは”と心配して、父さんが死なないように、自殺しないように、一生懸命お祈りしたんです。

1週間後 ふうふうになって帰って来て、もうゴルフをする気力がない。その時です。

「あなた、もう一度教会に行きませんか。キリストのメッセージが語られている教会に行きましょうよ。」行ったんですね。最初にみんなで讃美歌を歌うのですが、その時 涙がガーッと流れて来た。そして、この世の原理と、神が語っていることの違いに驚いたんです。

彼はこう考えました。「役に立つ人間になったら愛される。能力のある人間になったら、愛され大切にされる。だから、能力を持ち続けなければならない。勝負には勝ち続けなければならない。

どんなに苦しくても辛くても、歯をくいしばって弱みを見せずに、とにかく頑張る。」

でも、頑張れなくなる時が来ました。

スポンサーは離れたけど、不思議なことに家族や友人たちは、活躍していた時以上に心配して、来てくれたんです。「世の中には、私が持っている価値や能力を愛したり、目当てにして近寄って来る人もいるけど、そうではなく、私の存在そのものを大事に思ってくれている人がいるんだ。」

そのように接してくれるクリスチャンの価値観の根底には、神がそのような方だというのがありません。神様は、私たちが何かできるから愛してくださっているわけではありません。

神様は、私たちの人生の出来栄によって 愛したり愛さなかったりする方ではないんです。何もできなくなっても、神は愛なので あなたを愛する。

この世の愛は I love you. Because you are clever/rich man とか、そんなんでしょ。

でも、聖書の神様の愛は God loves you. Because God is love. 神は愛なので愛してくださる。

「努力や頑張りで振り向かせて愛してもらう、という愛じゃない。何もできなくても、無条件で一方的に愛してくださる愛があり得る。それこそはキリストの愛だ。キリストは、私がまだ罪人で神に反逆している時に、私の身代わりになって死んでくださったから。」

彼は初めてキリストの十字架の意味を噛みしめました。

そうして次のトーナメントに出た時、決勝まで行くんです。これをホールに入れたら勝ち。

ぶるぶる震えるんじゃないか…。

その時、「ホールに入れたら、神は私と一緒に喜んでくれるだろう。外したら、神はきっと私と一緒に泣いてくれるだろう。私が良い時だけ駆け寄って来るんじゃないくて、ダメな時には寄り添ってくれる。勝てなくても、私への神の愛は変わらない。人生の出来不出来に関係なく、私を愛してくれている方がいる。」

そこで思い切って振り切った時、これが7年ぶりの優勝になったんです。

彼はたくさんのインタビュアーに向かって「皆さん。勝つ秘訣、それはキリスト。」

分からなかったと思いますよ。

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができません。

神様との関係が断絶しているために、神が本来準備しているものを味わい損ねている。そして、あんなに得意で好きだったことさえも重荷になって、苦しくて嫌になって。なぜそうなったのか。自分で頑張っているからです。

一日の中で、全然頑張れない瞬間ってありますよね。寝てる時です。

寝てる時、頑張っていて心臓動かしている人いますか。自分の意思で動かしてるんじゃないですよ。

でも、自分の意思で動かしたいと思っても、これ以上動かせないときが来ますよ。

命って、自分で握っているんじゃないんです。では、だれが握っているんですか。

あなたを造られた神が、あなたの命を握っておられるのです。

そして、あなたに素晴らしいチャンスを与えてくださっているのです。

どんなチャンスでしょうか。「神から離れたまま、苦しい人生に行くのをもうやめようよ。」

神から離れて飢え苦しむような人生ではなく、創造主である神のもとに立ち返って、人生を神との共同作品として造っていく。

全知全能の神を敵に回すのではなく、全知全能の神と麗しい親子関係のような甘い関係に入る。

そうして人生を生きて行くことができたなら、どんなに楽しくステキだろう。

しかし、一つ問題があります。コロナの間、皆さんのご家族の間で、本当に命が危険で入院された方がおられたかもしれません。でも会えなかったでしょ。

病室の人は会いたい。お見舞いの人も会いたい。しかし、この二人の間に遮蔽物がある。

もしかしたらウイルス持っているかもしれない。病院の中では、ウイルスを持っているかもしれない人は立ち入り禁止。この中は無菌状態でなければならないので、ウイルスを持っている人は入ることができない。

同じように、神は聖い方なので、罪人が罪をもったまま不用意に近づくことはできません。

罪を完全に取り除く必要があるんです。そのために、神はイエス・キリストをこの世界に遣わしてくださいました。人となられた神です。

ローマ人への手紙 3 章

24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

価なしに義と認められるは無罪になるということです。

私たちは罪人なのですが、キリスト・イエスによる贖いによって無罪と認められる。

では、神の恵みによる、キリスト・イエスによる贖いとは何でしょう。

恵みは一方的な愛・憐みです。贖いは代価を払って何かを取り戻す、という意味があるんですね。

今色んなところで活躍している女優さんで、サヘル・ローズ (1985-) さんという方がいますね。

イランから来ました。僕も大好きです。

イランには独裁者ホメイニ、イラクにはサダム・フセイン。30 年ほど前にイラン・イラク戦争が始まりました。イラク空軍の爆撃で、サヘル・ローズさんの家族 (14 人家族でしたが) ほぼ全滅。

彼女は4歳の時に、残った家族とも生き別れになって孤児院に入ったんです。その孤児院に、テヘラン大学の子学生たちがボランティアに来ていました。テヘラン大学はイランの東大です。最も優秀な大学。その一人にフローラ・ジャスミンという優秀な生徒がいて、孤児院にいたローズさんを見たんですね。

まだ4歳くらいで家族みんなバラバラ。そんなサヘルさんはジャスミンさんを見た時、何を思ったのか「ママ」と呼んだんです。初対面なのに。その時ジャスミンさんの中で何かが起こったんですね。「私はこの子を引き取って育ての母になる」と決めるんです。ジャスミンさんは名門の出身です。「名家の女性が、孤児院の素性の分からない女の子を養女にするということは、あってはならない！」と両親は大反対するのですが、彼女は譲りませんでした。結果 勘当されます。親子の縁を切られた。支援が切られました。

更に当時のイランの法律では、子供を産める女性は養子を迎えることができませんでした。そこで、彼女は子宮を取ったんです。サヘルさんを養女にするために、自ら手術して子供を産めない身体になった。

しかし、イランで生活できませんでした。ジャスミンさんの婚約者が日本にいたんですね。「日本に逃げよう。」日本に来たけど、この婚約者がDVだった。躰と称して幼いサヘルさんを虐待。婚約者を取るか、この子を取るか。この子を取ったんです。逃げ出しました。公園で野宿です。

ある人の助けでようやく生活できるようになりましたが、サヘルさんが中学生くらいの時、日本にいるイラン人がテレホンカードの偽造や色んな悪い事をしたんですね。それでイラン人=悪い人。そんなバッドニュースが広がりました。

学校で深い考えもなしに「おまえ、イランから来たんだろ。おまえも犯罪者の仲間？ どうやって食ってるわけ？ 俺たちの親が払っている税金で食べさせてもらってんの？」そんな言葉の暴力に耐えかねて早退し、もう生きるのが辛くて、お母さんがいない家で首を吊って自殺しようと思って帰宅したら、いないはずのお母さんがいるんです。

お母さんはベッドに突っ伏して泣いてたんですよ。同じような扱いを受けてたんです。「お母さん、私もう生きるのしんどい。死んでもいい？」そしたらお母さんが「いいよ。お母さんも一緒に行ってあげるから。」

それを聞いた時、「私は死んでもいいけど、こんな素晴らしい女性を絶対死なせてはならない。今までは自分がしんどいばかり言ってたけど、お母さんも十分苦しんでいた。いや、お母さんの苦しみは、私を引き受けたために身に降りかかっていること。もし私を引き受けなかったら、イラン屈指の名門の令嬢として今頃ぬくぬくした生活をしていたのに。私を自分の子供にするために、両親を捨て、婚約者を捨て、イランでの未来を捨てて苦しんでくれた。このお母さんを幸せにするまで私は死んだら駄目。」

こんなお母さん、なんて素晴らしいんだろうと思いますが、神はこれ以上のことをしてくださいました。神は私たちの罪を赦すためにイエス・キリストを遣わしてくださいました。キリストは私たちの罪を背負って、十字架に掛かってくださいました。

キリストは私たちが神様の子供にするために、本当に何もかも失ったんです。
十字架の上で神からも捨てられ、人からも捨てられ、善いことしかしなかった方が悪人の極みのように、ゴミのように扱われて。(音声不良)
このキリストの一方的な償いの働き。これが**神の恵みによる贖い**です。

私たちが**神様の恵みによる贖い**を受けるなら、どんな人でも**義と認められます**。
義と認められるというのは無罪とされることです。
神様が私たちを見た時、どこにも罪を見出すことができないような、完全無罪の立場に見なしてくださるのです。

皆さんはミケランジェロの『天地創造』の絵画をご存知ですか。
半身起こしているアダムと雲の上に乗っている神が、ET（*映画）みたいに指と指を差し出して。神はグーッと伸ばせるだけ伸ばしていますが、アダムは肘が曲がり、手首が曲がり、指が曲がってるんですよ。

つまり、“神の側では精一杯のことをやった。あとそれを掴むのは本人の意思” という意味です。
伸ばそうと思ったら伸ばすことができるんです。
伸ばせば必ずタッチできるところまで、神は準備してくださっているんですね。
私たちが**義と認められる**のに必要なことを、神は全部やり終えてくださいました。
あとは受け入れるだけでいいんです。

すなわち、**私の罪のためにキリストが十字架に掛かって死んでくださったこと、キリストは墓に葬られて 3 日目によみがえってくださったこと、この方を自分の救い主として信じ受け入れる**なら救われます。永遠のいのちが与えられます。すべての罪が赦されます。神様の子供とされます。
地上のすべての人生において、キリストがエスコートしてくださいます。
神様は、私たちに最高の人生を与えてくださるのです。
クリスチャンらしく立派になって整えられてから…。そんなことしなくていいです。そのままいいんです。

最後に 1 つお話して終わらしましょう。
私には 3 人の子供がいて末っ子が女の子ですが、この子が一番男の子みたいでした。
中々うまいこと行きませんね。でも～、男の子みたいでした。
3 歳くらいの時、平日に公園に連れて行ったんです。その頃 私は脱サラしたばかり。

貿易会社に 10 年ほど勤め、それはそれは楽しい商社マン生活でしたが、人生 1 回しかないので本当にやるべきことをやりたいと思ったんです。それは商社に入って金儲けをすることじゃなかった。
金は無いより有るに越したことはないと思います。はっきり言いましょう。大好きです。
ですが、一番好きじゃない。お金というのは、お金よりも大事なものを守るために必要なんです。
金そのものが目的じゃない。

私としては、私にこんなに良くしてくださった、変えてくださったキリストのことを、同胞の皆さんにお伝えしたいという思いでいっぱいでした。
それで会社を辞めて、フルワーカーのキリスト伝道者になったんです。

あっちこっちからお呼びが掛かって、「ここで講演してください。あそこでも、うちでも」と言ってもらえると思ったら、そうは問屋が卸しませんでした。どこからもお呼びがない。招いてくれた集会は1年で2つだけ。夏と冬のボーナス時には買ったマンションの返済があり、恐怖でした。

昼間、まだ幼稚園にも行っていない娘を公園に連れて行って、私は物思いにふけり、彼女は彼女で遊んでる。ある時「お父さん！お父さん！見て！」えっと思って見たら、鳩捕まえてる。できる？鳩って飛ぶハトやで。飛んでる時に捕まえたのではないと思いますよ。いくらなんでも、歩いているから言うて、鳩捕まえられますかね。捕まえようと接近したら、羽ばたいて逃げて行くんじゃないですか。

それをね、3歳児が鳩捕まえて「お父さん、見て！」思わず、親の顔が見たいと思いましたよ。「あ、俺か」と。「すごいでしょ！」と自慢するんですが、鳩は苦しそうなんです。「もう逃がしてやりなさい。」「いやや！せっかく捕まえたから逃がさへん！」「逃がしてやりなさい。」「逃がさへん！」「逃がしてやりなさい。」

これ、どんだけスゴイことをしたのかを認めてほしかったんですね。だから褒めた。「そんなことできる人間て、ほとんどないよ。その意味で、キミは世界の偉人の一人だ。」「嫌やなあ。せっかく捕まえたのに。家に持って帰って、お母さんにも見せびらかしたいなあ。」そしてグッと持ち上げて。

鳩は逃がしてくれるのかなと思てんのに、逃がさないでじっとしてた時、大量のフンをブワッと降らしたんですよ。あのね、鳩ってね、身に危険を覚えたらフン出すんですよ。体の半分くらいフン入ってんちゃうか、いうくらいブワッと。娘は頭からフンだらけや。「うわーっ！」言うて、さすがに放しました。「お父さん、こんななったあ（泣）」

私はフンだらけの娘を見て、汚れてるから突き放すなんてことはしません。汚れてるけど私の娘であることに変わりない。だから「来なさい。」抱きしめてやりましたよ。そして、公園の水道の所に行って洗いました。私は汚れたありのままの娘を受け入れましたが、汚れたまんまに放置しませんでした。

同じように神は、私たちを罪人のままで受け入れてくださいます。罪人のままで神のもとに返ることができるように、キリストを備えてくださったんです。しかし、罪人のままの状態にはしません。キリストのところに行けば、キリストの血潮によってすべての罪が清められる。すべての罪は清められる。そのためにキリストは来てくださったんですね。

私たちがすべきことは1つだけです。幼子のような信仰で「神よ、私の人生の中に全知全能の救い主が絶対に必要です。どうぞ私を助けてください。私の救い主になってください」と受け入れることです。救われます。永遠の裁きから救われます。永遠のいのちが与えられます。

ぜひ、この素晴らしいプレゼントを受け取ってください。心からお勧めします。